

保育キャリア基礎演習の授業に参加して

保育児童学部 教授
家政学修士 吉川晴美

このたびは、貴重な授業を見学させていただきありがとうございました。

将来保育に専門的にかかわることをめざす1年生を対象とし、公務員試験をクリアするための技能を学び、キャリアを積むための対策授業で、そのなかで本日は、数的推理の予想問題についての授業でした。

最初に中島総長先生が、保育所や幼稚園の保育者、教師として公務員になること、その関門である公務員試験にチャレンジし、合格することの意味、重要性をわかりやすく、優しくお話しされ、1年生である学生にとって、今後も続く保育キャリア演習の授業に継続的に取り組む動機を明確に示されていたと思います。

取り上げられた問題内容は、電車の時速、時計の角度、容器内の砂糖水の濃度についてでした。いずれも数的推理の問題としては典型的な問題で、ご担当の土屋修先生の、1年生の演習最後の締めくくりに相応しい問題選択と進める上での入念なご準備がおりになったことと推察されました。

専攻の分野からは、受講の学生においても、数学には苦手意識を持つ場合も多いのではないかと思っておりましたが、総長先生の、数学の試験は、0点か満点かというように得点が大きく分かれる傾向がありがちなので、皆さんが頑張れば満点がとれるようになれば、難しい公務員試験に合格できる可能性も高くなる、と励まされたことには、これも、特に苦手な学生には大きな励ましになるのではないかと思います。

授業は、(1) 問題の音読、(2) 問題について事物や図を使用しての解説、(3) 模範解答を通しての解き方(式)と正解の理解、(4) 解答モデルに従い類題を解く練習と全体への発表、(5) 今までの学習の理解、暗記、復習、(6) 確認テストと結果の自己評価、(7) 満点がとれたことの確認、といった、総長先生の提唱なさる方式にもとづき、丁寧にゆっくりと進められていました。

授業では、様々な工夫がなされていたと感じられました。例えば、問題の理解のための具体的解説では、実際の電車の絵や梁の操作可能な時計の模型を使ってわかりやすく説明されていたと思います。このことは、学生の問題理解を助けるとともに、将来保育職につき、実際に子どもに接する学生にとって、具体物や生活体験を媒介とした子どもの数的推理をも育む保育者像、教師像とも重なり、専門的保育技術を学ぶ授業にも重なっていると考えさせられました。

保育の指針や基本となる、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領においても、保育者は、遊びや生活のなかで、子どもの数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚を育てていくことの役割名があることが示されており、学生が保育者になってこのような役割を果たせることができるようになる基礎をつくることにも、本授業は関連し、貢献できるのではないかと考えました。子どものあらゆる分野の知識及び技能の基礎を育むことを援助・教育する職務につく学生にとって、数学分野以外の他の分野においても、同様なことは言えて、公務員試験の勉強を通して、学生の苦手を克服し、安心した状況のなかで、やればできるのだという学習方法と考え方を示されたと思いました。

総長先生におかれまして、授業の過程の節目には、学生ひとりひとりに向けて、分かったかどうか、みな満点を取れるようにと、確認、励ましをされておられたことが、大変心に残りました。